

新製品開発におけるフロントエンドローディング

‘新製品開発と英国’

— 新製品開発の創世 —

(株) ジョンクイルコンサルティング 落合以臣

A Front-End Loading in New Product Development

‘A new product development and England’

-The Genesis of new product development-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords: 脱退・誕生・歴史・テーマ・サステイナブル・期待

BREXIT（欧州からイギリスの脱退：British と exit とを組合わせた造語）の最中で、脱退交渉に疲弊し経済的にも政治的にも揺れている英国では、時の大帝国と名を馳せた印象とは大きく変貌しようとしています。新製品開発の歴史的な変遷を辿ってみますと、英国は半導体の基礎理論の構築、コメットという飛行機の発明、インシュリンの発見など、数多くの基礎研究にもとづく発明・発見・開発をしてきたとって過言ではないかもしれません。

また、小さな分野ではありますが、公衆電話のコインレス、つまりテレフォンカードの誕生は、英国のコインは小さいものもありますが、50 ペンス硬貨はかなり大きく重さもありますので、ズボンのポケットに穴が開いてしまうことを回避する方法として作られました。つまり、必要性から生まれたものです。

こうしたことに鑑みますと、英国の新製品・新商品は目的をどのような方法をもって実現していくのか、いわば、開発テーマから仕様書を作成し、そこから開発がスタートするというフロントエンドローディングを実践しているわけです。筆者が居住していたころの英国を思い出しますと、古さを重んじるといいますより、耐久消費材にはあまり投資をしません、必要なものは揃っているという状況でした。また、当時の女性首相であったマーガレットサッチャー氏が、「なんてこの国はハイテクがないのか、日本を見習った方が良い」との号令を発したほど、1980年代は新製品開発に関して“体たらく”であったと言えます。しかしながら、いつの間にかじわじわと新製品を送り出すようになり、その代表的な製品が、英国コッツウォルにある小都市マルムズベリに創業したダイソンの羽を使わない扇風機であったといえます。今年、シンガポールへ本社を移転することなので、誠に残念に思います。また、1967年に創立されほぼ50年の歴史を持つ Sugden 社では、RICHARD ALLEN"というアンプの設計で知られています。このほど、Web の情報では Sugden Audio 『A21』純A級プリメインアンプという製品が、現代の音色を引出しているといわれていることで話題になっています。50年前に作ったものが、その歳月を経ても音響を再現できるという、いかにも英国らしい技術ではないでしょうか。このアンプは、長いキャリアを持つ熟練した職人によってハンドメイドで作られたとのこと。

いずれにしても英国の欧州から脱退で、国自身の活動が停滞すると言われていたようですが、先ほども述べましたように、世界が目を見はるような新製品が、必ず生まれると思います。その要因は、中国経済のハードランニングがいよいよと迫る中で、もうこれ以上の中国頼みの栄華は訪れないことを目の当たりにしたことにあります。なぜならば、ここ10年、ドイツ、欧州全域を皮切りに中国マネーが世界を駆け歩いた後が、無残にその恩恵を受けた国々に残されているからです。いかにも中国経済が、逃げ去った後の光景といえます。やはり経済の成長は、新製品開発と同じように、長い歴史の中で培ってきた手法を粛々と進めていくことが肝要なのではないでしょうか。サステイナブルな発展は、一度にたやすく大きな利益を手に入れるような一攫千金的な手法ではできないのです。言い換えますと、七転八倒を繰返しながら、5年、10年先を見据えた新製品・商品のテーマを見出し、そのテーマの開発過程を可視化・定量的リスク評価を行う姿勢、この基本的な考え方を踏襲することを今後も英国に期待したいと思います。